

国語科 学習指導案

府立北かわち阜が丘高等学校

1. 日時 令和元年 11 月 22 日（金）第 3 時限（10 時 45 分～11 時 35 分）

2. 場所 本館 4 階 第 1 学年 5 組 HR 教室

3. 学年・組・科目 第 1 学年 5 組（40 名）・国語総合（現代文分野）

4. 単元（題材）名 「相手に応じた理由や根拠を選択しよう」（表現）

5. 単元（題材）の目標

- ・自分の考えや事柄が読み手に納得や共感を得るよう、理由や根拠の示し方を工夫して書こうとしている。 【関心・意欲・態度】
- ・自分の考えや事柄が読み手に納得や共感を得るよう、理由や根拠の示し方を工夫して書くことができる。 【書く能力】
- ・読み手にとって、効果的に自分の考えが伝わる文章構造や言葉の使い方について理解することができる。 【知識・理解】

6. 生徒観

（略）

7. 教材観

本単元は、学習指導要領「国語総合」B 書くこと「ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと」に基づいて設定した。読み手に応じて理由や根拠の示し方を工夫し、文章を書くことがねらいである。身近な存在である「犬や猫」を素材として、それらを好きな理由を挙げさせることで、文章の構成の大切さを実感させたい。また第 2 時では、「風景の写真」を素材とし、生徒が自発的に言葉のもつ一般性と独自性に気付くよう促したい。

加えて、具体的な読み手を想定した文章を書かせることで、納得や共感を得るよう、自分の考えを支える理由や根拠をどのような意図のもとに示すのかを整理し、自らの文章を客観的にとらえ、目的や相手に応じて文章を推敲する力の育成につなげる。

8. 指導観

本単元では、「犬（猫）の好きな理由を想定した読み手から納得や共感を得るよう、工夫した文章を書く」という言語活動を設定した。この活動を通して、自分の文章を他者に興味・関心を持って読んでもらえるように、どのように説明すれば効果的なのか、自分なりの工夫を具体的な読み手を想定した上で「自分の考えや主張を支える理由をどうやって選択するのか」、理解を深めさせたい。その上で、読み手によって表現（書き方）を工夫するように促していく。

9. 単元（題材）の評価規準（国語は5観点）

a 関心・意欲・態度	b 話す・聞く能力	c 書く能力	d 読む能力	e 知識・理解
主張を支える理由や根拠を読み手の理解や共感を得るために明確な意図をもって選択し、文章を構成しようとしている。		主張を支える理由や根拠を読み手の理解や共感を得るために明確な意図をもって選択し、文章を構成することができる。		読み手の理解や共感を得るための適切な表現や言葉遣いをする中で、自分の考えを効果的に伝えられることを理解することができる。

10. 単元の指導と評価の計画（全3時間）

*○必要に応じて評価する（指導に生かす評価）

◎全生徒を評価する（記録に残す評価）

時	学習内容	評価の観点*					主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	e	
第1時	- 相手に自分が考えていることを説明するときに、効果的な説明の型があることを知る。 - 今回の目標を提示して、犬（猫）の好きな理由を10個、箇条書きで書きだす。 - 書き出したことを元に、犬（猫）を好きな理由を説明する文章を書く。 - 書き出した文章の中から、数名の生徒に発表させ、違いを考えさせ、次回につなげる。			○		◎	【c】自分なりに読み手に伝わるように工夫して文章を書いている。 （記述の点検） 【e】読み手に効果的に伝わるために必要な文章の構造について理解している。 （記述の点検）
第2時	- 風景の写真を見ながら、分かったことを10個、箇条書きで書く。 - 数名の生徒に発表させ、同じことを書いている生徒の数やそれを何番目に挙げているかを確認し、一般性（どんな人からも共感を得やすい視点や捉え方）や独自性（その人特有の視点や捉え方）について理解する。 - 一般性・独自性のメリットとデメリットを考える。 - 前回の犬（猫）を好きな理由について、同じように一般性や独自性を確認する。	○		○			【a】自分の書いた内容が相手に伝わる内容かどうかを吟味しようとしている。 （観察） 【c】自分の書いた内容が相手に伝わる内容かどうかを吟味することができる。 （記述の点検）
第3時 本時	前回の発表を踏まえ、好きな理由をもう一度書き出し、同じ題で文章を書き直す。その際、読み手を「初対面の人」と「友人」の2つの	◎		◎			【a】読み手にとって的確な表現や内容となるように文章を工夫しようとしている。 （記述の点検）

パターンで設定した文章を書く。 ・ 2つの文章を書く時に選んだ理由の選定意図を明確にし、今回の授業に生かしたかを確認する。					【c】読み手にとって的確な表現や内容となるように文章を工夫している。 (記述の点検)
--	--	--	--	--	---

1 1. 本時の展開

(1) 本時の目標 (第3時)

読み手に与える印象を想定しながら理由や根拠を選定し、明確な意図をもって文章を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

【a】自分の考えが読み手に納得や共感を得るよう、一般性や独自性の特性を考えて、根拠の示し方を工夫して書こうとしている。

【c】自分の考えが読み手に納得や共感を得るよう、一般性や独自性の特性を考えて、根拠の示し方を工夫して書くことができる。

(3) 準備物

ワークシート

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
5分 導 入	・ 前時の復習	・ 前回のワークシートを返却し、1時間目のワークシートを用意するように指示する。 ※「一般性」「独自性」それぞれのメリットとデメリットを確認する。	
40分 展 開	・ 第1時に自分が挙げた理由10個について、一般性のものと独自性のものに分類する。 ・ 「友人」「初めて話す人」それぞれに対して、再度、犬(猫)が好きな理由を説明する文章を書く。 ・ なぜ、その理由を選定したのかを意識して、ワークシートに選んだ理由を書く。 ・ 選んだ理由を発表する。 (指名発表)	・ 第1時の生徒の記述にあった理由をいくつか全体に示し、共感できるかを問う。 ・ 選んだ理由をそのまま板書する。 「友人」 ※独自性が強いものを選んで、印象に残したい。 ※一般性のあるものを選んで、共感してもらいたい。 ※独自性のあるものを多くしつつ、一般性のあるものも取り入れたい。 「初めて話す人」 ※共感できるものを選んだ。 ※初めてでも印象に残りたい。 ※共感できるものを多くしつつ、独自	【a】想定した読み手に即して、明確な意図をもって根拠を選択し、文章を書こうとしている。 (随時評価・記述の点検) 【c】想定した読み手に即して、明確な意図をもって根拠を選択し、文章を書くことができる。 (記述の点検)

		性のあるものも取り入れたい。 など	
5分 ま と め	・今回の授業を振り返って の感想を書く。	・役に立ったことや気付いたことなど、 今後の文章表現にも活用できる点を考 えるよう指示する。	【e】 自分の考えを効果的に伝 える工夫について、理解するこ とができる。 (記述の点検)

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導の手立て
【c】	想定した読み手に応じて明確な 意図をもって、理由や根拠を示 し、納得や共感が得られるよう、 文体や表現の工夫をし、自分の考 えを書くことができる。	想定した読み手に応じて明確な 意図をもって、理由や根拠を示 し、納得や共感が得られるよう、 自分の考えを書くことができる。	机間指導を行い、自分 が考えた理由や根拠 がもつ一般性と独自 性を整理するよう助 言する。

